

医療過誤・医療事故は、誤診・手術ミス・術後のケア不足などで発生し、多くの「医療裁判」が日常的に行われています。

あるいは、急激な全身性のアレルギー反応（アナフィラキシーショック）で死亡したというニュースを見ることも少なくありません。

それから「薬害」というものもあります。

戦後の「薬害事件」のいくつか挙げてみますと、次のように枚挙に暇がありません。（ごく一部です）

- (1) ジフテリア予防接種禍事件（1948年頃）
- (2) ペニシリンによるショック死事件（1956年頃）
- (3) 「サリドマイド事件」サリドマイドによる四肢欠損等の障害（1962年頃）
- (4) 「スモン事件」キノホルムによる亜急性脊髄視神経症（1970年頃）
- (5) 「種痘禍事件」予防接種事故（1970年頃）
- (6) 筋肉注射液による大腿四頭筋拘縮症（1973年頃）
- (7) 「薬害エイズ事件」血液製剤によるHIV感染（1983年頃）
- (8) 「C型肝炎事件」フィブリノゲン製剤（血液製剤）によるHCV感染（1987年頃）
- (9) 陣痛促進剤による子宮破裂・胎児仮死（1988年頃）
- (10) 「MMR事件」MMRワクチンによる無菌性髄膜炎（1992年頃）

このような事件の数だけ、犠牲者（重篤な状態や命を失う方も）がおられるわけです。

これまでの「薬害事件」をこうして見ると、予防接種やワクチンによるものも少なくないという「事実」がわかります。

2. 教訓を生かし「防災」につなげるには

大きく「命を守る」という意味では、地震・津波の被害も、豪雨による水没も、「医療災害」も同じく、「災害を防ぐ」ための「防災」が大切と思います。

これまでの多くの「医療災害」が教えてくれるのは、医師（医療関係者）も、病院も「間違えたり、失敗したりもする」ということです。

医療関係者も人間なのですから、そんなことは当たり前ののですが、つい盲信してしまいがちです。

今は「セカンドオピニオン」という言葉もあります。

たとえどんな名医であっても、人間である以上は「間違えたり、失敗したりする可能性もある」という「事実」を、まずは「前提として」認識しておきたいところです。

もっと言えば、国や政府も「健康被害補償制度」を作るぐらい、これまでたくさん「間違ってきた」わけです。

国や政府を相手取った「国家賠償責任訴訟」も、数多く起こされています。

これも「決して、国や政府を盲信してはいけない」という「教訓」であり、これを生かして「防災」につなげたいものです。

3. 「新型コロナ」に関連するワクチン接種被害について

先日、NHKでも「新型コロナワクチン」のリスクが、大きく番組報道されました。

この番組報道によりますと去年12月、新型コロナワクチンを製造するファイザー社とモデルナ社は、ワクチンの説明書を改訂しました。

それまでは「本剤との因果関係は不明であるが、本剤接種後に、心筋炎、心膜炎が報告されている」という表記だったものを、「心筋炎、心膜炎があらわれることがある」という表記に変更したのです。

国とワクチンの専門家が接種後の副反応や体調不良を検討する報告会、「厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会」では、全国の各医療機関からワクチン接種後の心筋炎、心膜炎の症状についての報告が上がってきています。

ある被害者が血液検査を行ったところ、体の炎症を測る数値が基準値の、およそ2倍、高いことがわかり、医師から「ワクチン接種後の心膜炎」という診断結果を告げられたそうです。

新型コロナワクチンを接種すると、ワクチンが細胞に取り込まれ、しばらくすると細胞から「赤いトゲ」のような「ウイルスの遺伝情報をもとに作られた新型コロナの突起」が出てきます。

この突起を察知した免疫細胞から出てくる「抗体」が新型コロナの突起に付着して、細胞に感染するのを防ぎますが実はこの時、もう1つの反応が身体の中で起きます。

細胞がワクチンの成分を取り込むと、まるで本当に感染したときのように警報のような働きをする物質が分泌されます。

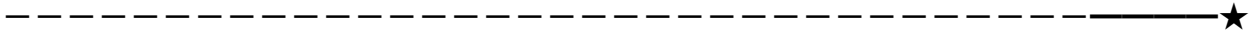
その警報を受けて、本来なら体を守るはずの免疫細胞が過剰に活性化してしまい、そうして暴走すると体内を傷つけてしまうリスクがあるのです。

こうしたことが「ワクチン接種後」に心臓で起こると、炎症が生じるのではないかと心臓の専門医たちは推測しています。

【出典】NHK『新型コロナワクチン 接種後の「心筋炎・心膜炎」』

https://www.nhk.jp/p/asaichi/ts/KV93JMQR8/blog/bl/pmD0J4b58m/bp/pnVYa660em/?fbclid=IwAR1-IHLZUzIKW1GrTSD9AFTSZgP2Xx0D4s1D_wS54_UkahRPFYnrFt6J0Q

4. 子どもたちへのワクチン接種について



◆新津波電文対応 SignalNow Lite、販売中！！
気象庁の新津波電文に対応し、津波警報・注意報も通報することができます。
「高度利用者向け緊急地震速報(予報)」を利用した通報システムです。
<http://www.estrat.co.jp/sn-lite.html>

・～・～・～・～・～・～・～・～・～・発行元・～・～・～・～・～・～・～・～・～・

ストラテジー株式会社
〒182-0023 東京都調布市染地 2-14-50
SignalNow シリーズの開発・配信事業を行っています。
緊急地震速報 地震動の予報業務の許可事業者 許可第 198 号
<http://www.estrat.co.jp/>

・～・～・～・～・～・～・～・～・～・編集・～・～・～・～・～・～・～・～・～・

株式会社小林洋行コミュニケーションズ SignalNow デスク
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-15-7
<https://kobayashiyoko-com.jp/sn/>